

三股町教育研究所

I	研究主題及び副題	6-1
II	主題設定の理由	6-1
III	研究目標	6-1
IV	研究仮説	6-1
V	研究の全体構想	6-2
VI	研究内容	6-3
	1 学習指導等研究班	
	(1) 授業に関する実態調査、意識調査	
	(2) 学習規律の収集・整理	
	(3) 1 単位時間の授業モデルの作成	
	(4) 授業研究会	
	2 学習習慣形成研究班	6-6
	(1) 本班的取組について	
	(2) 基本的な生活習慣の確立	
	(3) 読書の推進	
	(4) 家庭学習の充実	
VII	研究の成果と課題	6-10
	1 研究の成果	
	2 研究の課題	
	〈参考文献〉	6-10
	〈研究同人〉	6-10

I 研究主題及び副題

みまたん子の学力を伸ばす学習指導等の研究

～小中連携を大切にされた基礎的・基本的な内容の定着と学習習慣の形成を目指して～

II 主題設定の理由

「ゆとり教育」「新しい学力観」「生きる力」と、子どもたちに身に付けさせたい学力観は変遷してきた。それは、時代が変わり、その時代の社会の抱える問題や子どもたちの実態が変わってきたからである。急激な時代の変化に加え、東日本大震災も起こった。これから、さらに変化は進み、どのような時代が来ても「生きる力」を身に付けさせなくてはならないと言われている。そのような中、昨年度までに、新学習指導要領が、小、中、高等学校で全面实施となった。21世紀は「知識基盤社会」と言われ、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育むことが重要になっている。「基礎的・基本的な知識・技能の習得」「思考力、判断力、表現力等の育成」「学習意欲の向上や学習習慣の確立」という確かな学力についての基本的な考え方が学校現場には浸透した。本県においては「第二次宮崎県教育振興基本計画」が平成23年度から32年度の10年間の計画として策定された。少子高齢化、人口減少時代の到来、国際化・グローバル化等の社会情勢の中で、「未来を切り拓く 心豊かでたくましい 宮崎の人づくり」を目指しているものである。

「文教みまた」と言われてきた三股町は、昔から教育熱心で幾多の人材を生んだ誇り高い土地柄である。「文教みまた」とは、400年の歴史を持つ郷中教育、それを振興した三島通庸、この精神を受け継いで三股を築いた人々によって形成された言葉である。三股には「米の倉より頭の倉」という言葉があり、経済的な困難にもめげることなく教育に力を注ぐ教育尊重の気風がある。子どもたちのほとんどは、町内6小学校から三股中学校へ進学する。そのため、小中一貫した教育が進めやすい環境にあり、平成22年度には児童生徒自ら「児童生徒憲章」を策定し、共通実践として「校門での一礼」「黙想座礼」「無言清掃」「郷土学習」などの「伝統教育」を行ってきている。また、「教育の情報化」を推進し、教科指導におけるICTの活用、情報教育、校務の情報化に取り組み、学校教育の質の向上を図ってきている。しかしながら、学力向上に関する共通実践や学校間の連携については、継続して取り組んでいるとは言えない状況にある。平成25年度のみやざき小中学校学習状況調査では、町内の小中学校全教科の平均が県平均より低い状況にある。また、教師は、基礎的・基本的な内容の定着に課題があると感じている。家庭学習や保護者の協力に関しては、それぞれの学校や学級において良い取組がなされているものの、共通理解、共通実践するには至っていない。このような状況を考えると、学力向上の手立てを工夫改善していく必要がある。

そこで、三股町では、県教育委員会から「宮崎の子どもの学力を伸ばす総合推進事業」の基礎学力定着指導実践推進地域の指定を受け、町内6つの小学校と1つの中学校で連携して実践的な研究を進めていくこととなった。今年度から3年計画で、小・中学校間の連携を図りながら、児童生徒の基礎的・基本的な内容の定着と学習習慣の形成を図るための、学習指導及び教育課程の工夫、家庭との連携による指導等の実践的研究を行うこととした。今年度は、児童生徒の実態を把握し、共通実践事項を確立するとともに、家庭への情報発信をしていく。このような児童生徒の学力向上に向けた実践と実践成果の普及のために本主題を設定し研究を進めることにした。

III 研究目標

三股町の小・中学校における、児童生徒の基礎的・基本的な内容の定着と学習習慣の形成を図る指導の在り方についての実践研究を行い、児童生徒の学力向上を図る。

IV 研究仮説

三股町の小・中学校において、児童生徒の基礎的・基本的な内容の定着と学習習慣の形成を図るための、学習指導及び教育課程の工夫、家庭との連携による指導等を行えば、学力が向上するであろう。

V 研究の全体構想



VI 研究内容

1 学習指導等研究班

(1) 授業に関する実態調査、意識調査

研究を進めるにあたり、児童生徒の実態を捉えることが大切である。そこで町内の全教職員及び全児童生徒を対象にした授業に関する実態調査等を行い児童生徒の実態を把握した。

ア 調査用紙

児童生徒の授業に関する実態を調べるために、右記のようなアンケートを用いて6月に調査を行った。また、教師に対しても同様の項目で実施し、教師から見た児童生徒の実態の把握を行った。

イ 結果の分析と考察

児童生徒及び教師ともに「自分の考えを筋道や理由を明らかにしながら話すこと。」「自分の思いや考えが相手に伝わるように書くこと。」の2項目が特にできていないと感じていた。

「学力向上」に特に必要と思うものでは「学習規律の徹底」「個に応じた指導」の2項目の割合が高かった。しかし、「個に応じた指導」については、必要性を感じながらも、実際には、思うように指導できていなかったり、そう感じたりしているようであった。

(2) 学習規律の収集・整理

学習活動を成立させるためにまず大切なのは学習規律の徹底である。そこでこれまでの本研究の研究を振り返り、以下のようにまとめた。

学習規律とは学習活動を成立させるために、児童生徒が、個人または学校や学級の集団として守るべき大切な「きまり」

また、これまでも研究所からの提案や伝統教育等で小中連携して授業の始まりには黙想・座礼をするなどの取組を統一して実施してきている。それらの取組を見直し、右記のように「みまたん子授業の約束」として学習規律を整理し、町内すべての学校で取り組むことにした。

(3) 1 単位時間の授業モデルの作成

本研究でねらいとしている基礎的・基本的な学習内容の定着を図るために、町内の小中学校で共通実践できるような1 単位時間の授業モデルを作成した。作成にあたっては、アンケート調査に見られる課題とみやざき「学びのすすめ」宮崎の子どもの学力を伸ばす“ひむか3か条”にかかげられている具体的な項目を踏まえることにした。同時に授業のポイントとなることについて、み・ま・たのキーワードで表し、日々の実践に活用した。

< >年 男・女

アンケートのおお願ひ

これは、先生たちがよりよい授業をするためのアンケートです。テストではありません。日ごろの勉強について、思った通りに答えてください。

番号	質問	できている	回答らん だいたい できてい ない
1	「がんばろう」という気持ちで勉強している。		
2	家庭学習（宿習や宿題など）をしている。		
3	学年に合った黙想・座礼をしている。		
4	教科書やノート、学習に使う道具を忘れずに持ってきている。		
5	先生の話や友達の発表をよく聞いている。		
6	ノートをきちんととっている。		
7	自分の気持ちや考えを進んで発表している。		
8	自分の考えを筋道や根拠を明らかにしながら話している。		
9	わからないことは先生や友達に質問している。		
10	友達と助け合ったり教え合ったりと協力して学習している。		
11	文章に書いてあることがよくわかる。		
12	場面に合わせて、自分の思いや考えが相手に伝わるように書くことができる。		
13	分からないことは、進んで調べたり考えたりしている。		
14	課題等に最後まであきらめずに取り組んでいる。		
15	自分から進んで読書をしている。		

ごきようのよく、ありがとうございました。

【児童生徒の授業に関するアンケート用紙】

みまたんこ じゅぎょうのやくそく

じゅぎょうのまえ

① がくしゅうでつかうどうぐをきちんとつくえのうえにおきましょう。

じゅぎょうのはじまり

② ちゃくせき・もくそう・ざれいをきちんとしましょう。

しせい

③ つくえからだのあいだは、にぎりこぶし1つぶんくらいあいだをとり、せすじをのぼしてすわりましょう。

④ あしのうらをゆかにつけましょう。

へんじ

⑤ なまえをよべたら、おおきなこえで「はい」とへんじをしましょう。

はなしのききかた

⑥ はなしをするひとのめをみてきましょう。

⑦ だまってさいごまできましょう。

⑧ うなずくなどしてはなしをききましょう。

はなしかた

⑨ みんなにきこえるこえではなしましょう。

⑩ 「～です」「～ます」などさいごまで、はっきりとはなしましょう。

ノート

⑪ もじをていねいにかきましょう。

⑫ 「めあて」と「まとめ」をしっかりかきましょう。

⑬ じぶんのかんがえのあとをのこしましょう。

じゅぎょうのおわり

⑭ ざれいをきちんとしましょう。

平成26年度三股町教育研究所作成

【みまたん子 授業の約束・低学年用】

みまたん子の学力向上は日々の授業の充実から

◆児童生徒の学力向上のために、基本的な授業モデルを提案します。

み

みんなで考え学び合う場を

- 自分の考えを記述したり伝え方を工夫したりする自力解決の時間を確保することで、児童生徒の理解や思考が深まり、考える力を伸ばすことができます。
- 筋道や根拠を明らかにしたペアやグループ、学級全体での発表や学び合いを行うことで、児童生徒の意見や考えをより確かなものにしていくことができます。
- 授業でしっかり教えること、じっくり考えさせることのめりはりをつけることで、基礎的・基本的内容の定着と活用する力の育成を図ることができます。

ま

「まとめ」につながる「めあて」の提示を

- 本時のめあてを明確にすることで、学習の見通しを持たせ、学習のゴールイメージに向けた主体的な学習活動を進めることができます。
- 「めあて」から「まとめ」まで一貫性のある授業を行うことで、本時の学習内容や指導事項を整理した形でとらえ、何を指導し評価するのか分かりやすくなります。

た

確かめることで学習内容の定着を

- 本時の目標が達成されたかどうか、練習問題等で確認することで、児童生徒の学習内容の理解や定着を把握することができます。その後の指導に生かすことができます。
- 学習のあしあとが残るようなノートにすることで、児童生徒が学習内容の確認や振り返りをしやすくし、本時の学びを明らかにさせることができます。

◆ 授 業 で 心 が け た い こ と

導 入	つ見 か通 むす	「まとめ」につながる「めあて」の提示を ○ 前時の復習（小テスト）などを取り入れ、学び直しをする。 ○ 学習課題（問題）を分かりやすく示す。
	調深 べめ るる	みんなで考え学び合う場を ○ 自分の考えを書く、理由や根拠をもとに話す、比較しながら聞く、伝え方を工夫するなどの言語活動を充実させていく。 ○ 「教えること」と「考えさせること」を明確にした指導を工夫する。
終 末	ま と め る	確かめることで学習内容の定着を ○ 学習のねらいが達成できたか、練習問題などで確認し、不十分な点は指導する。 ○ まとめやノートをもとに、学習内容や学び方について振り返る場を設定する。

【1 単位時間の授業モデル】

(4) 授業研究会

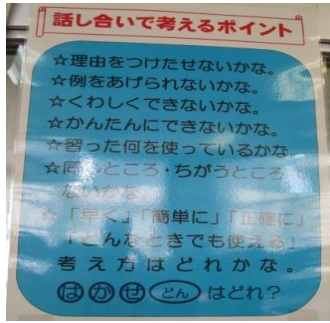

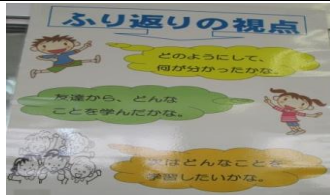
町内の教師に学習内容の定着や学力向上に向けた授業実践をしてもらうために、授業モデルを活用した授業研究会を3回実施した。事後研究会は、3つの視点を中心とした授業研究会を行い、成果と課題について協議することで授業改善に向けた取組ができると考えた。

次の3つの視点に基づいて授業研究会を行った。

- 「み」～「みんなで考え学び合う場」の設定はどうであったか。
- 「ま」～『「まとめ」につながる「めあて」の提示』はどうであったか。
- 「た」～「た～確かめることで学習内容の定着」の工夫はどうであったか。


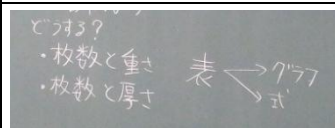
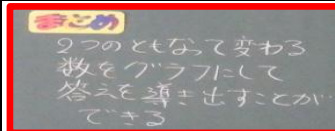
ア 検証授業1 10月実施 「小学校 第5学年 算数科『面積』」

- 本時の目標：三角形や長方形などの面積の求め方をもとに、平行四辺形の面積の求め方を考えることができる。

視点	成 果	工 夫
み	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自力解決の時間の確保（十分な時間確保） <ul style="list-style-type: none"> ・ 自力解決の時間が十分に確保されていたので、自分の考えをしっかりとつとむことができた。 ○ 学び合いの工夫（話し合いのポイント、質問、補足） <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えと比較しながら、友だちの考えを聞き、質問をしながら、互いの考えを深めることができた。 ○ 教材・教具の工夫（ホワイトボード用紙の利用） <ul style="list-style-type: none"> ・ 考え方が分かりやすい。 	 <p>【話し合いのポイント】</p>
ま	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習事項をもとにしためあて（三角形を使う） <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の既習事項（三角形を使う）の確認がしっかりでき、その関連からの本時のめあてが導きだされた。 ○ 見通しのもたせ方（長さは測らなくてもいい） <ul style="list-style-type: none"> ・ 「長さを測らなくてもいい」というヒントをもとに見通しをもたせることでどの子もスムーズに調べ活動に入れた。 	 <p>【既習事項の掲示物】</p>
た	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童自らまとめをさせる工夫（（ ）書き） <ul style="list-style-type: none"> ・ （ ）に書く形にすることで、児童自らの言葉でまとめることができた。 ○ 振り返りの工夫（視点を与える） <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りの視点を与えることで、自分の言葉でよく書くことができていた。 	 <p>【ふり返りの視点】</p>

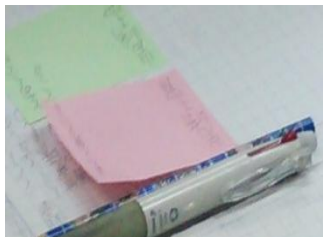

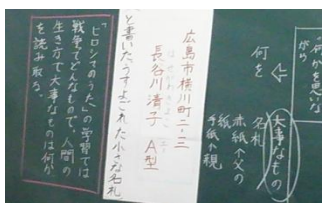
イ 検証授業2 11月実施 「中学校 第2学年 数学科『比例と反比例』」

- 本時の目標：具体的な事象の2つの数量関係に着目し、表やグラフ、式など問題解決に利用できる。

視点	成 果	工 夫
み	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループ活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 4人で調べる活動を行う中で、既習学習をもと話し合いながら、表を作成し、課題の解決を行うことができた。 ○ 数学的活動の活用(具体物) <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際の用紙をはかりや定規を使って、一定の枚数の重さや厚さを測定した結果をもとにいろいろと意見を出し合い、試しながら、主体的に解決しようとする姿がみられた。 	 <p>【数学的活動】</p>
ま	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見通しのもたせ方の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 解決の見通しをもたせるために枚数と何を比較すればよいかという視点を与え、重さや枚数をもとに表を使って解決することを確認した。 	 <p>【解決方法の視点】</p>
た	<ul style="list-style-type: none"> ○ まとめタイミング <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の時間を十分に取るために、机間指導をしながら、タイミングよくまとめた。 	 <p>【まとめ】</p>

ウ 検証授業3 12月実施 「小学校 第5学年 国語科『ヒロシマのうた』」

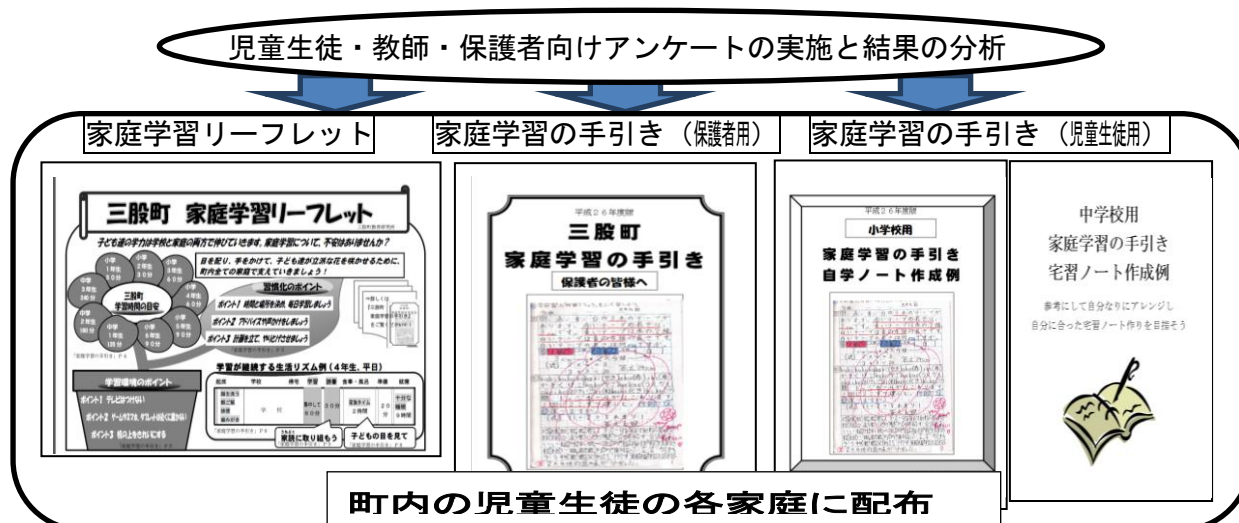
○ 本時の目標：扉のページの言葉を手がかりに、学習課題を設定することができる。

視点	成 果	工 夫
み	<ul style="list-style-type: none"> ○ 言葉の違いによる学び合い活動(付箋紙の活用) <ul style="list-style-type: none"> ・ 「見ている」と「見つめている」の違いについて付箋に書いたものをグループで発表させることで主体的な活動が見られた。 ○ 個別指導(例文の提示) <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉の違いを付箋に書いていない児童へ、2つの例文を提示することで感じ方の違いに気付かせ、自分の考えが書けるようにした。 	 <p>【付箋紙の活用】</p>
ま	<ul style="list-style-type: none"> ○ 視点をもたせるための「めあて」の設定 (ICT機器の活用) <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでに学習した扉のページの言葉をクイズ形式で提示することで、これから学習する課題の視点を明確に示すことができた。 	 <p>【ICT機器の活用】</p>
た	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習課題の設定(視点を明確に) <ul style="list-style-type: none"> ・ 扉のページの言葉を使って、学習課題の視点を戦争や人間の生き方に絞って、読み取ることが確認することができた。 	 <p>【学習課題を立てる】</p>

2 学習習慣形成研究班

(1) 本班的取組について

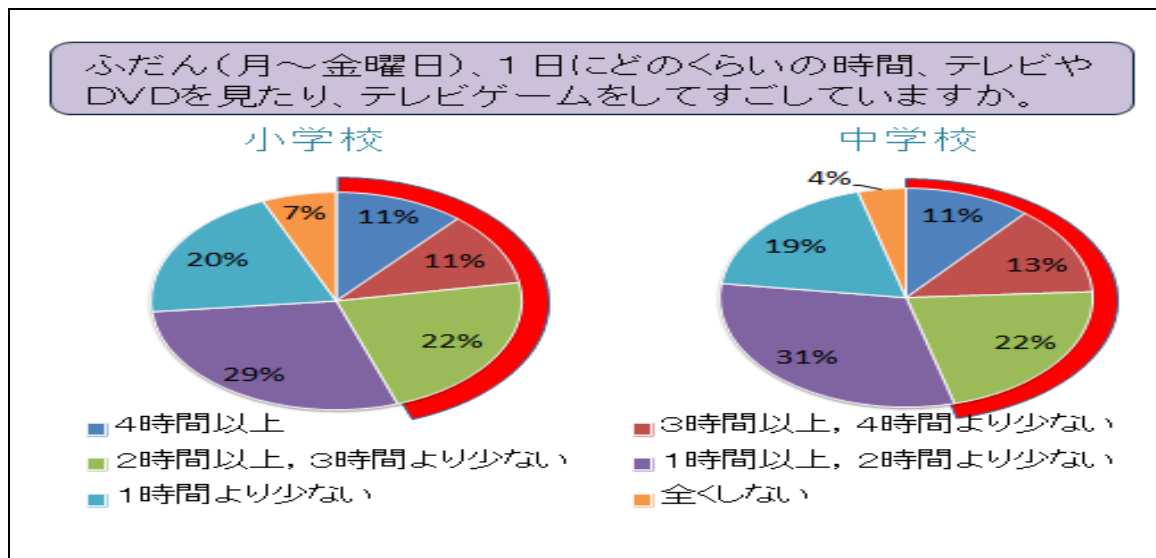
本班では、家庭学習や基本的な生活習慣に関するアンケートを、7月に児童生徒、教師向けに、9月に保護者向けに行った。そして、これらのアンケート結果を踏まえて、「家庭学習のリーフレット」と「家庭学習の手引き」を作成した。冊子を配布するだけでは徹底は図れないと考え、リーフレットを入り口にして手引きを手にとってもらうことにした。手引きには、①家庭学習の意義、②学習時間の目安、③学習の内容、④生活リズムを整えることの大切さ、⑤学習環境を整えること、⑥習慣化の大切さ、⑦親子のコミュニケーションの意義、⑧読書の意義についてまとめている。さらに、⑨家庭学習の仕方について、学年毎の自学のノート例を載せて具体的な方法を紹介している。この資料は12月に各校に配布し、1月には町内の児童生徒の各家庭に配布をすることができた。



以下は、上記の④生活リズムを整えることの大切さ、⑧読書の意義、⑨家庭学習の仕方について、アンケート結果と手引きの内容である。

(2) 基本的生活習慣の確立

児童生徒に対して実施した、生活リズムに関するアンケートの結果は、以下のとおりである。



【児童生徒アンケート結果】

- 平日におけるテレビやDVD、テレビゲームの時間が2時間以上を越える児童生徒が小学校では44%、中学校では46%で約半数に当たる。帰宅してから就寝までの時間で、勉強時間、読書、食事、入浴、家庭団欒の時間を考えるとテレビ等の時間が長いといえる。

テレビ等の視聴時間が増えることは、生活リズムの乱れにつながる事が考えられる。そこで、「家庭学習の手引き」で「生活リズムを整えることの大切さ」についてまとめた。また、日々の家庭学習の計画をたてやすくするため「平日の流れ」を載せた。

生活リズムを整えよう。

Q. どうして生活リズムを整えることは大切なのですか？

A. 学習定率や学習意欲、体力、気力とつながりがあるから大切なです。

生活リズムの乱れは、学習意欲や体力、気力の低下の原因の一つだと指摘されています。全国学力調査の結果でも、家庭での基本的な生活習慣が確実に身に付いている子どもは、学習定率率が高い傾向が見られます。1日の生活のリズムをつかませることが、子どもにとってとても重要です。

そこで、生活リズムを整えるためのポイントを3つ！

- ① 早寝・早起き(決まった時間に寝て、決まった時間に起きる)をする。
- ② きちんと朝ごはんを食べる。
- ③ テレビ、ゲーム、パソコン、スマートフォンの使用時間などのきまりをつくる。

学習の計画を立てよう。

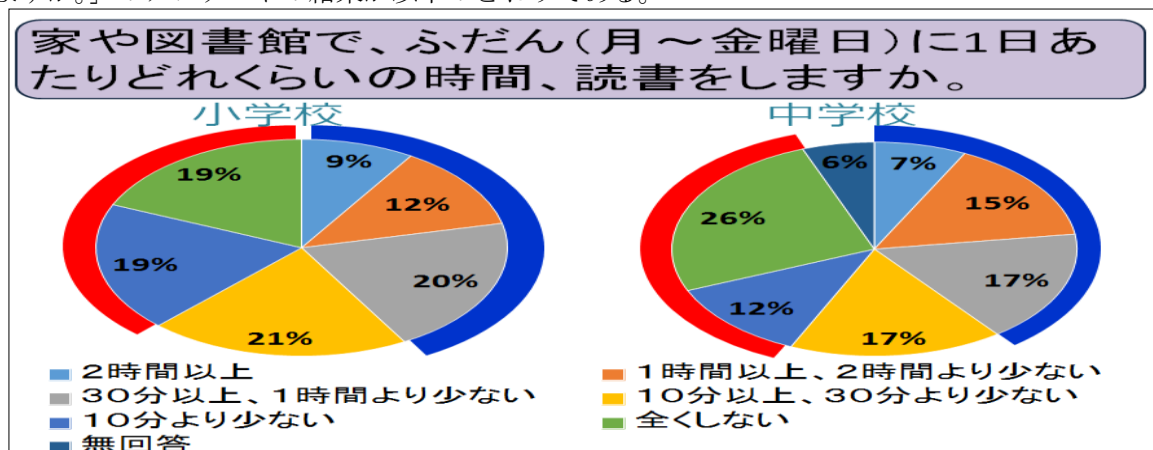
<例. 平日の流れ(4年生の場合)>

6:00～		16:30～	17:30～		18:30～	20:40～	21:00～
起床(早起き)	学校	家庭学習時間割	読書	自由時間	夕食・入浴 家族でコミュニケーション	就寝準備	就寝(早寝)
朝ごはん 排便 歯みがき		学習環境を整えて 集中する	テレビを消して本と向き合う		学校での出来事や最近のニュースについて話そう		十分な睡眠
		1時間	30分間				9時間

【家庭学習の手引き (抜粋)】

(3) 読書の推進

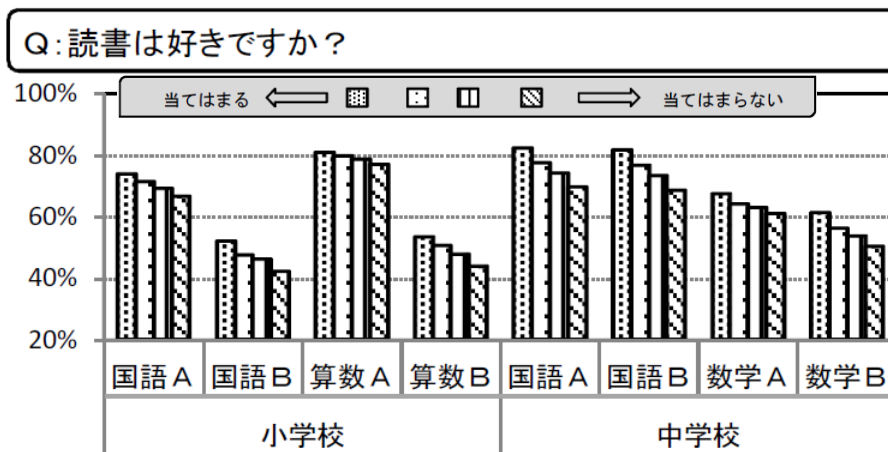
読書について「家や図書館で、普段（月～金曜日）に1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか。」のアンケートの結果が以下のとおりである。



【児童生徒アンケート結果】

アンケートの分析を行うと、小学校時で30分以上読書をしている生徒が41%、10分より少ない生徒が38%であり、中学校では30分以上読書をしている生徒が29%、10分以下の生徒が38%であることがわかった。以上の結果から、小学校で10分以下の読書量の児童は、中学校に進学してまったく読まない傾向があるということがわかった。そこで小学校時から中学校時までの継続的な読書の指導の必要性があり、「家庭学習の手引き」で以下のようにまとめた。

○Q なぜ読書が必要なのか？



A1 読書は、学力を高めてくれます。

右の図のように全国学力調査において読書に対して肯定的（どくしょがすき）と思っている生徒の方が小学校、中学校の国語、算数・数学において高い正答率を残している。

A2 読書は豊かな人間性を育てます。

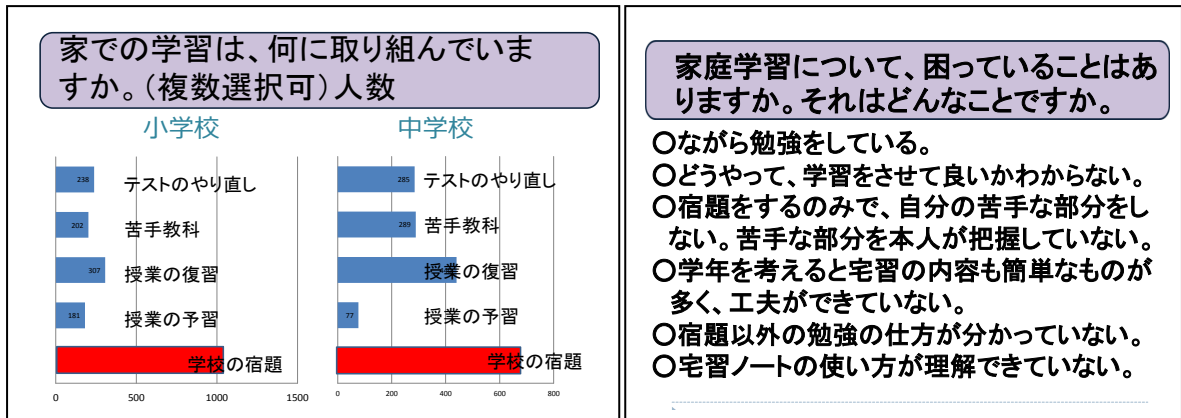
読書の効果としてあげられることは、知識の習得のみでなく、物事に対して深く考える力がついたり、たくさんの人の考えに触れることができ考え方の幅が広がります。

○こんな読書がおすすです。

どんな本を読ませれば良いのか？という疑問を持つかもしれませんが、この読ませればという考えを捨てていただいて、子供が本を選べる環境を作ってください。図書館に一緒に行くもよし、休日を使って本を選びに行くもよし、子供が読みたいと思ったときが一番読書をさせるタイミングだと思います。子供が読書をしているときに、一緒に読書してみるのもいいかもしれません。子供に読む力がついてきたら、保護者の方々が良いなと思った本を子供に勧めても良いかもしれません。たくさんの本が子供を必ず大きく成長させてくれるはず

(4) 家庭学習の充実

児童生徒及び保護者に対して実施した家庭学習に関するアンケートの結果は、以下のとおりである。



【児童生徒アンケート結果】

【保護者アンケート結果】

- 児童生徒が家庭学習で取り組んでいる内容は、学校の宿題がほとんどであり、宿題以外には何を学習してよいか分かっていない児童が多い。
- 「何をどうやって学習させればよいか分からない」「自学ノートの使い方を理解できていない」といった悩みをもつ保護者が多い。

このような結果をふまえて「家庭学習の手引き」を作成した。児童生徒が学習内容や進め方を考えて主体的に家庭学習に取り組むことができるように、学習の手順や方法、学年ごとのノート例について載せることとした

5・6年生の家庭学習について

家の人といっしょに読みましょう。

1 目標

- 毎日、90分は集中して学習しましょう。
- 学習習慣をきちんと身に付けましょう。
- 自分に合った自主的な学習にも取り組みましょう。

2 家庭学習の前に、必ずチェック!

- テレビやゲーム、パソコンなどのスイッチは、消しましたか?
- 勉強する場所(机の上など)は、きちんとかたづいていますか?
- 姿勢やえんぴつの持ち方は、正しいですか?

3 こんな学習を、こんな順番で、毎日やってみよう!

- ① はじめに、学校から出された課題をきちんとしましょう。
→ プリント、漢字練習、計算ドリル、日記、読み声など

↓

- ② 次に、**自主学習(自習)**に取り組みましょう。
自分のためになる学習を、自分で決めてやりとげましょう。

★ノートの上の空いているところに「日付」と「めあて」を書きましょう。
例。たねが発芽する条件について、習ったことを分かりやすくまとめよう。

学習内容	やり方の例
◆その日の学習の復習	・その日、学校で学習したことを復習するために、教科書やノートの大切なところを写したり、まとめたりする。
◆苦手な学習内容(問題)にチャレンジ	・自信のない学習内容について、教科書やノートを見て、できるようになるまでくり返し学習する。
◆テストのやり直し	・テストでまちがえた問題について、なぜまちがえたのか、どのように考えればよくなったのかをおさえる。
◆次の日の学習の予習	・次の日、学校で学習することを予習するために、

5・6年生のノート例

日付を書きます。

めあてを書きます。

答え合わせをして、まちがえた問題はやり直します。

図で表すと、学習したことがすっきり整理できます。

区切りの線を入れると、ノートは見やすくなります。

絵を入れると、分かりやすくまとまります。

必ず繰り返ひを書きます。

めあて②

必ず繰り返ひ②

授業のポイントを自分なりに分かりやすくまとめています。

テストのやり直しです。なぜまちがえたのかをおさえるといひです。

【家庭学習の手引き(抜粋)】

VII 研究の成果と課題

1 研究の成果

- 学力向上に向けた1単位時間の基本的な授業モデルを作成し、それをもとにした授業研究会や授業参観を行い、町内すべての学校で統一した取組を進めることができた。
- 学習規律の大切さや機能について確認し、「みまたん子授業の約束」として各学校に配布し、活用を図ることができた。
- 授業モデルと学習規律を取り入れた授業研究会を実施し、その有効性の検証や、授業場面での具体的なイメージ化ができた。
- アンケート調査により、町内の児童生徒や保護者の家庭学習への意識や実態を把握できた。
- 児童生徒、保護者、教師対象のアンケート結果を生かした「家庭学習の手引き」を作成し、町内すべての学校で学級活動や参観日の懇談等で活用することができた。
- 児童生徒向け、家庭掲示用、保護者向けの「家庭学習の手引き」を配布することで、保護者、児童生徒の意識を高めることができた。
- 拡大研究推進委員会を開催し、町全体としての取組に対する共通理解を図ることができた。

2 研究の課題

- 授業モデルの活用や学習規律の徹底を図るために、学習規律に関する児童生徒の自己評価や授業モデルに関する授業評価など、より効果の上がる取組を工夫する必要がある。
- 本年度スタートした共通実践内容を教育課程編成に生かしていく必要がある。
- 基本的な学習習慣の育成のために、「家庭学習の手引き」をもとにした学級での具体的な指導や保護者への啓発を進めていく必要がある。
- 「家庭学習の手引き」を活用して、学校と家庭が連携して効果的な家庭学習の取組を進めていけるようにする。
- 各学校と研究所との連携の在り方を工夫し、研究推進していく必要がある。
- 読書指導や学校図書館の充実など、読書の推進のための取組を工夫する必要がある。

◇ 参考文献

- ・「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」（平成20年8月／文部科学省）
- ・文部科学省委託研究「平成25年度全国学力・学習状況調査(きめ細かい調査)の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」（国立大学法人お茶の水女子大学）
- ・秋田県大仙市大曲小学校HP「学びのきほん」（大仙市大曲小学校）
- ・第二次宮崎県教育振興基本計画（宮崎県教育委員会）
- ・みやざき「学びのすすめ」（宮崎県教育委員会）

◇ 研究同人

所長	宮内浩二郎（三股町教育委員会）	班長	西 慎吾（三股西小学校教諭）
次長	山元 道弥（三股町教育委員会）	研究員	高橋 亮一（三股小学校 教諭）
主幹	福永 弘幸（三股町教育委員会）	研究員	未住 政志（勝岡小学校 教諭）
主査	湯浅かおり（三股町教育委員会）	研究員	福岡 茂樹（梶山小学校 教諭）
主査	山内まどか（三股町教育委員会）	研究員	渡邊 政彦（長田小学校 教諭）
指導員	馬場 真吾（三股町教育委員会）	研究員	中原さおり（三股西小学校教諭）
主任	坂元恵美子（宮村小学校 教諭）	研究員	林 耕治（三股中学校 教諭）
班長	源 千穂（三股小学校 教諭）	研究員	杉尾 政和（三股中学校 教諭）